

9月

VOL.526
2018 Sep.

グラフ *Graph Kagoshima*
かごしま

特産品プレゼント!

詳しくは14ページへ



【隔月1日発行】
定期購読：年間1,400円(送料込)

薩摩焼の
伝統と魅力

特集

小特集

新造船で旅に出よう!
フェリーさんふらわあ

明治維新150周年企画
かごしまISHIN物語

農林水産業の発展

旅ルリカケス

薩摩半島のサンセットライン
吹上浜沿いドライブ

特産品探訪

もり
屋久杉の杜からの
『あいさつ名刺入れ』



鹿児島県



11月

VOL.527
2018 Nov.

グラフ *Graph Kagoshima* かごしま

特産品プレゼント!

詳しくは14ページへ



[隔月1日発行]
定期購読:年間1,400円(送料込)

特集

明治維新150周年記念

現代の 薩摩学生を 英国へ派遣

小特集1

鹿児島をもっと元気に!
鹿児島のポテンシャル

小特集2

若手介護職員に聞く!
介護職の魅力

明治維新150周年企画
かごしま ISHIN 物語

薩摩の教育と医学

旅リカケス

列車とバスでゆるりと
霧島満喫の旅

特産品探訪

霧島 散歩茶器



1月

VOL.528
2019 Jan.

グラフ *Graph Kagoshima* かごしま

特産品プレゼント!

詳しくは14ページへ



〔隔月1日発行〕
定期購読：年間1,400円(送料込)

小特集

活躍する
鹿児島県の企業

明治維新150周年企画
かごしまISHIN物語

薩摩の文化と芸術

旅ルリカケス

古き良き日本の風景へ
南薩さんぽ旅

特産品探訪

平成西郷星
レジェンド・セット
本場大島柚

特集

農林水産物の 販路拡大の取り組み

～2020年を目指して～



6月20日は、国際日系デー!

PRプロジェクトに参加しよう!

2018年6月にハワイで開催した第59回海外日系人大会で、6月20日を「国際日系デー」とすることが宣言された。パンアメリカン日系人協会のフェルナンド・スエナガ会長(ペルー)が、「150年の歩みと提言」をテーマとしたスピーチの中で、「国際日系デー」を日本からの最初の集団移民「元年者」がハワイへ上陸した6月20日とすることを提案。大会宣言において採択され発表された。

「国際日系デー」については、北中南米の日系社会が2年に1度、加盟各国の持ち回りで開催している「パンアメリカン日系人大会(COPANI)」の2017年ペルー大会で創設が提案されたが、日付けをいつにするか、決定までには至っていなかった。

日本では、1908年6月18日に、ブラジルへの最初の日本人集団移住者781名を乗せた移民船「笠戸丸」がブラジルのサントス港に入港した日を記念して、総理府(現在の内閣府)が1966年に6月18日を「海外移住の日」に制定している。ブラジルでもこの日は「日本移民の日」と呼ばれ、現地の日系社会では毎年、開拓先没者を追悼する慰霊法要やミサ、記念式典等が行われている。また、ペルーでは、日本からペルーへの最初の集団移住者790名を乗

せた移民船「佐倉丸」が1899年4月3日にペルーのカヤオ港に到着したことを記念して、移住90周年にあたる1989年にペルー政府が4月3日を「ペルー日本友好の日」と制定。ブラジル同様、ペルーの日系社会でも毎年この日に記念式典や追悼法要などが行われている。

このほかにも、各国それぞれに日本人移住の起源とされる日はあるが、今回のスエナガ会長の提案は、国を超えて各国の日系社会が共通の「日系デー」を祝うことで、日本から世界各地へと広がった移住者・日系人の足跡に思いを馳せ、連続と受け継がれてきた日系レガシーを再認識し、日系間の連携を促進し国際社会への一層の貢献を果たしていこうというもの。日本人の集団での海外移住の始まりである「元年者」に敬意を表し、そのハワイへの上陸日である6月20日を「国際日系デー」とすることとした。

今後、各国の日系社会がそれぞれにこの日を盛り上げていくことが期待されているが、当協会では、この日を広く人々に知ってもらうことを目的としたPRプロジェクトを開始した。

プロジェクトに参加しよう! ～参加方法はとても簡単です～

① 「6月20日は国際日系デー!」というメッセージを動画で撮影してください。どなたでも参加できます。動画はおひとりでも、家族や友達、職場などのグループでも、ペットでもイラストでも、なんでもOK。メッセージの言語も何語でもかまいません。居住国の国旗を振るもよし、何か楽器を演奏するもよし、身体を使って表現するもよし! メッセージの伝え方はどうぞ自由に!!

② 動画に以下のハッシュタグをつけて、TwitterやFacebook等のSNSに投稿してください。(ハッシュタグは、どちらかひとつでもOK)

#国際日系デー #kokusainikkeiday

動画だけでなく、「6月20日は国際日系デー」と書いたパネルを持った写真でも参加可能!当協会のWEBサイトから、日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語それぞれで書かれた「国際日系デー」のパネル・デザインをダウンロードできるので、プリントアウトしてご活用ください! もちろん、自作のパネルでもOKです。

みなさんから投稿された動画や写真でPR活動を盛り上げ

ていきましょう。どしどしご参加ください!!!

※SNSへの投稿方法がわからない方は、撮影した動画や写真(写真にはひと言メッセージを添えて)をメールで当協会までお送りください。当協会のSNSアカウントから発信します。

✉ info@jadesas.or.jp

投稿された動画および写真は、「国際日系デー」の広報のために利用し、それ以外の目的で使用することはありません。当協会の個人情報の取り扱いにつきましては、ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jadesas.or.jp/header-pages/privacy.html>





ブラジル日本人移住110周年記念式典

パラナ州、サンパウロ州で 眞子さまをお迎えして盛大に開催

移民船「笠戸丸」で日本人がブラジルに初めて集団移住した1908年から110周年の節目となる今年、7月20日にパラナ州のマリンガ市で、翌21日にサンパウロ州サンパウロ市で、日本人移住110周年を祝う記念式典がそれぞれ開催された。この二つの式典には、日本からブラジルを公式訪問された眞子内親王が出席され、現地は歓迎と祝賀ムードに沸いた。

サンパウロ市およびマリンガ市の両式典には、当協会を代表して田中克之理事長が参列した。



両式典は眞子さまご臨席の下開催された(写真はサンパウロ)

サンパウロ州サンパウロ市

日伯の絆、歴史と未来を感じる祭典

サンパウロでの記念式典は7月21日、世界最大級の日系イベントである「日本祭り(フェスティバルド・ジャポン)」の中で執り行われた。

21日正午、船の汽笛が会場内に響き渡ると、ブラジル海軍音楽隊による演奏と共に日本・ブラジルの両国旗、ブラジル海軍旗が入場。続いてブラジル26州と1連邦府の旗、日本の47都道府県旗が入場し、式典では山田康夫ブラジル日本都道府県人会連合会会長、呉屋春美ブラジル日本移民110周年記念祭典委員長、ブルーノ・コーバス・サンパウロ市長、マルコス・ガルボン外務次官、マルシオ・フランサ・サンパウロ州知事が挨拶を行った。

ガルボン外務次官は挨拶の中で、2011年の東日本大震災時に在日ブラジル人の多くが日本に留まり復興支援にかかわったことに触れ、「国家の柱を強固にし、国家同士の相互理解を促進するのは、こういった人間同士のつながりに他ならない」と話した。

来賓等の挨拶の後、ひときわ大きな拍手に迎えられて壇上に立たれた眞子さまは、「日本からの移住者を温かく受け入れてくださったブラジル政府とブラジルの方々に感謝するとともに、移住者とそのご子孫が努力を積み重ねて今日の日系社会の発展を築き、支えてこられたことに心より敬意を表します。そして皆様が進んでこられた長い道のりに思いを馳せるとともに、その歴史が未来を担う世代にも大切に引き継がれていきますことも



記念式典は、日系・非日系を問わずたくさんの方で賑わうサンパウロの「日本祭り」の中で開催された

願っております」とお言葉を述べられた。

式典の前後には、日本舞踊や和太鼓、三味線、獅子舞や阿波踊り、エイサー等の伝統芸能をはじめ、ヨサコイや東京五輪音頭など、華やかなショーが次々と披露された。

パラナ州マリンガ市

1万人を超す参加者がお祝い

パラナ州は、サンパウロ州に次いでブラジルで2番目に日系人が多く住む地域。記念式典は、マリンガで7月19日から22日までの4日間にわたって開催された「EXPO・IMIN110(移民110周年エキスポ)」の中で、20日の18時より、メイン会場となる「エキスポ・アリーナ」で執り行われた。



マリンガで開催された記念式典には1万人を超える参加者が駆けつけた

「EXPO・IMIN110」では、日系企業や団体、パラナ州と姉妹都市提携を結んでいる兵庫県および同県の加古川市、姫路市、西宮市、淡路市などによる展示ブースのほか、現地日本語学校による日本文化紹介、アニメイベント、歌謡大会、盆踊り、和太鼓のワークショップなどが開催された。

記念式典では、各宗教代表らによる開拓先没者への祈りの後、黙祷が捧げられ、国際色豊かな音楽や民族舞踊のショーが、パラナ州全土および州外から集まった1万人を超える出席者を魅了した。

【田中理事長のコメント】

従来の周年行事とは異なり、「移民エキスポ」「日本祭り」といった大きなイベントの中で開催された110周年の記念式典は、日系人だけでなく、多くのブラジル人にも訴えかけるものだった。その準備・運営を行う中心世代が変わってきたことも印象的であった。

一方で、こうした周年行事に変わらず参加される皇室の存在、そしてそのことが現地の日系社会のみならず、ブラジル社会全体に感銘を与えていることが印象深かった。二つの式典共に盛大で素晴らしく、記憶に残るものとなった。